

2012年7月31日から8月5日にアメリカ・ニュージャージー州・プリンストンにて開催されたYeast Genetics & Molecular Biology Meeting (YGM) 2012に参加し、研究発表を行ってきました。伝統あるこの学会には、学生から大御所まで世界中の酵母をあつかう研究者が一堂に集います。YGM 2012 では400題以上の研究発表が行われ、まさに酵母漬けの5日間でした。私はその中で、出芽酵母においてアクチン結合タンパク質の一つであるプロフィリンがカルシウム恒常性維持と細胞極性形成・出芽に関与しているという内容のポスター発表を行いました。

7月30日に成田を発ち、ニューヨークで一泊しました。アメリカに来たらとちとちあえずステーキを食べなければと思っていたので、事前に予約しておいた老舗のステーキハウスで夕食を取り、その味と量に大満足してそ



老舗ステーキハウスにて大矢先生と

の日は早めに就寝しました。7月31日午後に電車でプリンストンに移動し学会参加登録を済ませた後、会場となるプリンストン大学を探索しました。全米屈指の名門であるプリンストン大学のキャンパスは、歴史を

感じさせる壮麗な建築物に囲まれたとても美しい場所でした。夜にはプリンストン大学付属の美術館にてオープニングパーティーが催され、お酒を飲みながら絵画や彫刻を鑑賞したのを憶えています。8月1日以降は、朝9時から夕方5時過ぎまで口頭発表、夕食を挟んで夜10時過ぎまでポスター発表が行われ、朝から晩まで最先端の研究成果を吸収し続けました。私の発表は3日の夜でした。自分の研究をきちんと英語で伝えることが出来るか不安でしたが、一緒に学会に参加していた指導教官の大矢先生から、「ポスター発表では聴きに来てくれたお客さんとのdiscussionを楽しみなさい」というアドバイスを頂き、気が楽になりました。60分の発表時間中に5人と話し、自分の研究に足りない部分や今後の方針を含めて議論することができました。この発表を通して、自分の研究内容を英語で伝えることができるという自信を得ました。また、自分の発表以外にも収穫は沢山ありました。世界的に著名な研究者らによる一流の仕事を毎日のように聴き、憧れを抱くと同時に研究意欲を駆り立てられました。食堂で食事をとっていると、知らない人が話しかけてきて、ひたすら自己紹介と研究の話をして去っていくことが何度もありました。カルチャーショックを受けるとともに、この積極性は見習うべきだと感じました。海外で活躍している日本人研究者とも知り合いになり、海外で研究することの楽しさ



整備が行き届いた美しいキャンパスに感服する筆者



プリンストン大学内の教会、荘厳な雰囲気

や苦勞を聴かせて頂きました。

総じて、YGM 2012に参加していた5日間は日常では経験できないことばかりであり、非常に濃密で有意義な時間でした。最後になりましたが、本学会参加にあたり、平成24年度(前期)東京大学学術研究活動等奨励事業(国外)による支援をいただきましたことを心より感謝いたします。



Mark Rose博士による開会挨拶、同時期に開催されていたオリンピックのシンボルが出芽酵母に

## 学会参加報告

Meeting Report

for USA



吉田光範

先端生命科学専攻  
大矢研究室 博士課程1年

<http://ps.k.u-tokyo.ac.jp/index.html>

Yeast Genetics and  
Molecular Biology Meeting

酵母漬けの5日間 in Princeton